

「香香」

第4戦のこのタイトル、レース内容と関係があるのかと突っ込まれそうですが…
パンダの名前が決定したので流行りに乗ったんです、ええ。(^_ ^)
カワイイから許してください。

「NN-B」クラス（軽NAのノーマルクラス ビギナー）

このところの NN-B クラスの充実ぶりには目を見はるものがある、この第4戦には、今季最多の7チームが参加してのバトル。そして今回はシリーズ最長の4時間戦、この結果次第では年間チャンピオンの行方も…

■予選

予選トップは#149「K4EP アルト 149R」1' 10.472、第3戦よりさらにタイムを詰めてきた。今回も MAX40 キロのウエイト。予選2番手は#13「愛知工科大学 DXL アルト」1' 11.122、今季初出場の地元大学の自動車部チーム、#13は NN-B クラスに出場。3番手#45「インフィニティーアルト」1' 13.330、ここまで3戦連続表彰台だが、あと一步の優勝を狙っている。エアクリナーには金色のテープで運氣アップを狙う。

4番手#29「スーパーアルトバイエル」は1' 13.694、#29だからウイナーなのか、狙うはもちろんウイナー。

5番手#150「SZK-150 アルト」は1' 14.204、開幕戦以来の表彰台を狙う。6番手#7「SevanRacing アルト」1' 14.870、前戦で成長中と書いたが、今回もタイムアップ。この前届かなかった表彰台に届くか。

7番手#138「ガレージタナカ PMU アルト」1' 19.435、予選は本調子ではなかったようだ、第3戦では2位を獲得しているだけに、このポジションからの巻き返しも期待したい。

このクラスでは定番のマシンとなった、全車が HA23V のアルトバン。

■序盤

ここまで今シーズン無敗の#149「K4EP アルト 149R」、その走りからも自信が伺える。#13「愛知工科大学 DXL アルト」、#45「インフィニティーアルト」を従えて上位陣を形成し最初のステイントを走行。

第2集団は#138「ガレージタナカ PMU アルト」、#29「スーパーアルトバイエル」、#150「SZK-150 アルト」あたりか。#7「SevanRacing アルト」もしっかりと付いていきたい。

#149「K4EP アルト 149R」はピットインで一旦下がるが、慌てないのは自分たちのレースができているからだろう。

■中盤

中盤のトップ争いは#149「K4EP アルト 149R」と#13「愛知工科大学 DXL アルト」が主役、わずかに先行するのは#13「愛知工科大学 DXL アルト」の方か。応援するチームメイトや先生にも力が入る。ちなみに今回のグリッドガールは同大学の学生さん。

第2グループの表彰台争いもなかなか熾烈。#138「ガレージタナカ PMU アルト」、#29「スーパーアルトバイエル」が同一 Lap、トップとも1 Lap となっており、表彰台どころか優勝争いも絡んできそう。

さらに#150「SZK-150 アルト」あたりか。#7「SevanRacing アルト」も諦めるほどの差がついているわけではない。序盤好調だった#45「インフィニティーアルト」、ゼッケン脱落など細かいトラブルもあって、ここまで少しリズムに乗れていないが、金色テープのご利益が効いてくれることを信じて粘りの走りを展開する。



無敗でチャンピオン決定！！ #149



4戦連続表彰台 #45



開幕戦以来の3位 #150



チョット張り切り過ぎたか #13



最終盤でのコースアウトも痛かったか #138

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

3 時間走行したがまだまだ先は長い、ゴールまで残り 1 時間。この局面でのトップは#149「K4EP アルト 149R」、やはりというか今年身につけた実力は本物。

2 番手走行は#29「スーパーアルトバイエル」だが、NN-E(エキスパートクラス)より速いタイムを記録した周回が見受けられる。K 耐久レギュレーションでは NN-B クラスのマシンが NN-E クラスのマシンより速いタイムを記録した周回は、減算するというルール(基準ラップタイム規定)。最終的な集計を待たなくていけないが、どんな結果となるか。

3 番手は#13「愛知工科大学 DXL アルト」、こちらも好調だが、同じく基準ラップタイム規定に引っかかる周回があるようだ。

4 番手は#150「SZK-150 アルト」、5 番手#45「インフィニティーアルト」。以下#7「SevanRacing アルト」が 6 番手、#138「ガレージタナカ PMU アルト」が 7 番手だが、最終順位は全く予想もつかない。

■最終結果

秋の日はつるべ落とし、日も暮れかかった夕方 5 時のチェッカー。他クラスでの集計確認などもあわせて行われた後、順位が確定。優勝#149「K4EP アルト 149R」(1 周減算)、2 位#45「インフィニティーアルト」、3 位#150「SZK-150 アルト」が表彰台。

4 位#13「愛知工科大学 DXL アルト」(7 周減算)、5 位#138「ガレージタナカ PMU アルト」、6 位#7「SevanRacing アルト」、7 位#29「スーパーアルトバイエル」でこちらは 15 周減算という結果に。

■総評

基準ラップタイム規定が 3 チームあり、そのうち 2 チームは順位に大きく関わる事になったが、このあたりはレギュレーションの趣旨をよく理解して貰いたい。またその他にも#150 のマシンが他のマシンを押し出すことがあり危険走行としてペナルティの対象に。こちらも熱いバトルは歓迎なのだが、しっかりと注意をしてのバトルとして欲しい。

とはいっても#149「K4EP アルト 149R」が無傷の 4 連勝でシリーズチャンピオン決定!! (パンダの名前の決定はこんなところにかかっていたんです)おめでとう! NN-E クラスでも中段に相当する Lap 数を記録して、立派に成長しました。



しぶとさが魅力 #7



かなり張り切り過ぎましたかね #29



金色で運氣アップ!



ビギナークラス

チャンピオン決めました!





ハンディのあるビートで初優勝！ #55



まだまだランキングトップ #5



逆転チャンプの可能性を残す！ #10



またも表彰台には届かず、惜しい #6



チョットビビったぞ！？

「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

上級者コースの「エキスパート」クラス、さすがに混戦。シリーズランキングトップの#5「Baden PROJECT K アルト」から4位の#6「ロッキーレーシング DXL アルト」まで16P 差、何かあればひっくり返る差でしか無い。なにしろ第3戦の前と比べても1Pしか変わらなかったのだから…そして今回はポイント大幅増量の4時間戦。この長い戦いが終わったあと勢力図はどう変っているのか。

■予選

予選トップはまたまた今回も#55「STC 中部ハネダビート」1' 09.132。予選では負け無し記録を更新。決勝ではここまで2位が最高だが全て表彰台に登っている、もちろん狙うは悲願の初優勝。これまでは5回の義務ピットが弱点だったが4時間戦では、走る時間が長くなった分ハンディの効果は落ちる。チャンスだ！

予選2位は#12「愛知工科大学 DXL2 号」1' 09.543、今季初出場、好成績を残してきた先輩たちに続けるか。

3位#5「Baden PROJECT K アルト」1' 09.671、ここも10秒を切ってきた、やはり実力伯仲だ。4位#10「FAST OUT 最速アルト V」1' 10.107、第3戦で復活のVを遂げ、第2戦のノーポイントを取り返したカタチだ。6位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」は1' 11.526、予選タイムは上がってきた、堅実な走りでも4時間後に笑いたい。

■序盤

さすがに実力派揃いのエキスパートクラス、最初のスティントではほとんど差がない。そして全車がビギナークラスより速い、やはりエキスパート。

トップを行くのは#12「愛知工科大学 DXL2 号」、だが#10「FAST OUT 最速アルト V」、#55「STC 中部ハネダビート」といった猛者たちがピッタリとマーク。さらには#5「Baden PROJECT K アルト」と#6「ロッキーレーシング DXL アルト」もさほど間をおかず追いかける。ちなみに今回のウエイトは#10FASTOUT チームに20キロだ。予選を見る限りそこまでの影響はなさそうだが、タイヤの摩耗が進むレース中盤以降はどうか。

■中盤

中盤では#55「STC 中部ハネダビート」のターン、クラスで唯一08秒台に入れるファステストラップを記録。途中ヒヤツとする場面もあるが、やはり速さなら一番だ。#5「Baden PROJECT K アルト」と#10「FAST OUT 最速アルト V」が2、3位。ともに最速ラップは09秒台。4位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」5位#12「愛知工科大学 DXL2 号」順調にピットインを消化しているようだ。

このクラスは、安全圏まで引き離すというレース運びができないほど競った展開になることが多く、まだまだ順位の変動がありそうだ。

■終盤

さあ残り1時間、トップは#12「愛知工科大学 DXL2 号」、このままこの学年での尾初優勝なるか142Lap。2位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」141Lap、3位#5「Baden PROJECT K アルト」141Lap、4位#55「STC 中部ハネダビート」も141Lap、このあたりは同一周回。5位#10「FAST OUT 最速アルト V」も140Lap。トップから5位までが2周回、やはり今回も接戦・熱戦。

スタート直後の暑さはひいてきたが、その疲れと路面温度の低下からくる予期せぬ挙動変化には気をつけて、集中して臨みたい。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

最終盤になってもどこが抜け出すかわからない展開、そんななか#12「愛知工科大学DXL2号」がスローダウン、チェッカー目前でストップ、これで初優勝が消えてしまった。そして激しい競り合いを制した#55「STC 中部ハネダビート」が初優勝、惜しい2位は#5「Baden PROJECT K アルト」、9秒5ほどの差だった。3位は#10「FAST OUT 最速アルトV」が粘ってポディウム。4位は#6「ロッキーレーシング DXL アルト」今回も表彰台までわずかに届かず、涙をのんだ。

■総評

少し接触などもあったが、それだけ激しいレースだったとも言える、とは言えやはり接触などは無いレースが望ましい。これでポイントは#5「Baden PROJECT K アルト」が80Pに伸ばすが優勝した#55「STC 中部ハネダビート」が30Pを加え72Pと差を詰める。ビートの5回ハンディは戦前に予想したとおり、周回が伸びたことにより相対的に減少し、「狙ってました」とチームの読みが的中。いよいよ残るは最終戦のみ。どんな結末が待っているのか。



初優勝も見えたが・・・ #12



チェッカー目前のバトルはすごかった！！



優勝は逃したがオイルはいただくぜ！



エキスパートクラス

最大のチャンスは4時間戦だと狙い通り





天王山を制し、逆転チャンプも見えた… #66



青ウイングは翔ばなかったか #25



またまたトップとの差を詰めた #225

NCクラス（軽NAのクロースドクラス）

#25「アカミミネコマル 2 トウディ」が 2 勝、#66「VISCONTI トウディ」が 1 勝。ここで#25 が勝つと一気に 7 連続タイトルへ前進、#66 は絶対に落とせないし、むしろここで勝つと最終戦へのはずみが付いて悲願のタイトルへという逆転ロードも見えてくる。なにやら日本シリーズのような感じになってきましたが、秋の天王山を制するのは！ あっ、ちなみに去年は先行された日本ハムが逆転で日本シリーズを制しています。

■予選

予選トップは、またも#66「VISCONTI トウディ」1' 08.621。これで開幕から連続トップタイムを 4 に伸ばした。これもなかなかの記録だ。

2 番手は#25「アカミミネコマル 2 トウディ」1' 08.911、2 週間ほど前の K-Meeting でなにやら練習？セッティング？の効果はあったか。今回のウエイト 20 キロは#25 に。予選3位#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」1' 10.440、トップ2の争いに注目がいくが、こちらもなかなかの実力者。レースをかき回すと面白くなる。

■序盤

やはりと言うか、上位 2 チームがバトルを展開。序盤#66「VISCONTI トウディ」は早速ピットイン、早めの仕掛けだ。続いて#25「アカミミネコマル 2 トウディ」がピットに、相手の様子は気になるか、それとも気にしないか、高次元のバトルが今回も見られる。3 番手#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」、まだ少しトップ 2 とはまだ少し差があるが、自分たちのレースをきっちりやっていけば、自ずとチャンスは来る。

■中盤

中盤でも早めのピット作戦で#66「VISCONTI トウディ」がピットイン。その間のトップは#25「アカミミネコマル 2 トウディ」、この間にギャップを広げたい。そうそう今回からウイングマークの色がチョット変ってたのが付きましたか。

2 番手走行は#225「ぐっちっちプリントアーツトウディ」、ここまでノートラブルでしっかりと付いていきたい。

3 番手に位下がった#66「VISCONTI トウディ」、ここから中盤～終盤の見せ場が来るか。まだまだレースは折り返し。

そしてここから#66「VISCONTI トウディ」がスパートを見せる。予選を超える 07 秒台を連続して記録しトップに立つ。#25「アカミミネコマル 2 トウディ」も食らいつくが、少しずつ差が開いていくように見える。



予選・序盤・中盤とまさに会心のレース！！

Race Report



■終盤

終盤で#66「VISCONTI トウディ」はタイヤ交換を敢行、勝利への執念を見せる。1 時間を残して 143Lap を走行。#25「アカミネコマル 2 トウディ」も王者のプライドがあり、07 秒台に入れて意地を見せるが、なかなか追いつかない。これは王者にとっては悔しいか。

#225「ぐっちっちプリントアートゥディ」は 139Lap、09 秒台に入れ、こちらも予選以上の速さをマーク。

ここからは気温。路面温度ともに下がってくる時間帯、真夏のように暑くてドライバーがバテることは少ないだろうが、まだまだアツアツのレースであることには変わりはない。



■最終結果

レース中に計時トラブルが発生し、集計作業に時間を要したものの最終結果としては#66「VISCONTI トウディ」が 176Lap を走行し、今季 2 勝目をマーク！

星を五分に戻した。2 位は#25「アカミネコマル 2 トウディ」、175Lap で届かず。

3 位#225「ぐっちっちプリントアートゥディ」は 169Lap、上位との差はまた一つ詰めてきた。



■総評

これでポイントは仲良く 85P、全くの同点に！タイトルの方方は全くわからない。天王山が終わったと思ったらまた天王山、文字通り決戦となる 11 月の陣。どんな結末になるのか。



NC クラス



今回も予選はトップ これで開幕から 4 戦連続！

完勝です！！





見事に初優勝！！ #69



VIVIO 対決を制し 2 位に #392



ランキングトップに浮上、さすが #330



こちらもまだまだチャンスあり #28

TC クラス（軽過給機のクローズド）

K 耐久全 5 クラスのうちで最も接戦・激戦になっているのがこの TC クラス。毎戦勝者が変わり、シリーズランキングでは#93「藤枝マリンダイビングアルト」がトップを行くものの 2 位、#330「DIXCEL コンパノミラ」とはわずか 3P の差、さらに#28「KHK VIVIO」もトップとは 8P の差で続いており、史上まれに見る三つ巴の混戦となっている。

そして参加台数も今季最高の 7 台を数える。2 勝目を取ったチームが、俄然有利なのは当然なのだが、思わぬ伏兵の出現も有りや無しや……

■予選

予選トップは#330「DIXCEL コンパノミラ」1' 07.359、第 3 戦で今季初優勝を決めて良い流れ。今回も予選トップを獲得。以前は予選はそれほど重視しないというスタンスも感じられたが、ここ 2 戦は予選から頭を取りに来て、第 3 戦では結果としてそれがうまくハマった。さて今回はどうか。

予選 2 番手は#28「KHK VIVIO」1' 07.794、第 2 戦の勝者はこの位置、ランキング 3 位から逆転を目指すには良い位置につけた。

予選 3 番手#93「藤枝マリンダイビングアルト」1' 08.413、現在ランキング首位。このポジションを守れるか。予選 4 番手#69「モモヤマレーシングアルト」1' 08.420、ZOOM-ZOOM 色で初表彰台を獲得した第 3 戦から上り調子。このままカーブにならって優勝決めちゃえ！！ここまで 1 秒強のなかに入る熾烈な予選。

予選 5 番手#392「Zammers ヴィヴィオ」1' 09.640、「元祖 VIVIO 遣いは俺達だ」

予選 6 番手#24「そのまんまのヴィヴィオ」1' 10.760、今回も揃いました 3VIVIO、やはり同じマシンは意識しますよね。

予選 7 番手#82「東海☆麗神具 KTM カプチャーノ」1' 14.843、少し本調子ではないようだが心配だ。

■序盤

今回好調なのは#69「モモヤマレーシングアルト」、序盤から上位を快走しトップにも立つ。おおっ ZOOM-ZOOM 効果は本物か。しかし廻りは猛者たちばかり、#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#330「DIXCEL コンパノミラ」が襲いかかる。さらには#392「Zammers ヴィヴィオ」も僅かの差で追ってくる。

第 2 集団は#28「KHK VIVIO」と#24「そのまんまのヴィヴィオ」だ。予選でタイムが今ひとつ伸びなかった#82「東海☆麗神具 KTM カプチャーノ」だが、やはり序盤から周回が伸びていない。トラブルから復帰して、力走を見せてほしい。

■中盤

中盤は#93「藤枝マリンダイビングアルト」、#69「モモヤマレーシングアルト」、#28「KHK VIVIO」がトップ 3 を形成折り返しへと向かう。

4 位に上がってきたのは#392「Zammers ヴィヴィオ」、#330「DIXCEL コンパノミラ」はこの時点では 5 位、早めのピット作戦か。

6 位は#24「そのまんまのヴィヴィオ」だが、#24 はホワイトラインカットのペナルティをほぼ連続周回で受けてしまう。さらにピットイン時のホワイトラインもカットし、同時に警告も受けている。ペナルティのと言うのはルールであると同時に危険を未然に防ぐという目的もあるので、その趣旨はドライバーやチームとして理解してほしい。

序盤にトラブルだった#82「東海☆麗神具 KTM カプチャーノ」もここに来て、07 秒台を記録しペースを上げてきた。

Race Report



■終盤

ゴールまであと1時間、まだまだレースを引っ張るのは#69「モモヤマレーシングアルト」、悲願の初優勝も見えてきた。終盤にさらに加速したカーブのようにこのままゴールになだれ込みたい。

2位は#392「Zammers ヴィヴィオ」、いやいやこのあたりはさすがにレースの組み立てが上手い。最後の追い込みで#69 モモヤマにプレッシャーを与えることができるか。3位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」なかなか良い位置ではあるが、思ったほど追い込みが感じられないのが不安材料。

4位はこちらもレース巧者、#330「DIXCEL コンパーノミラ」。まずは表彰台圏内に上がりたい。タイトル防衛のためには1Pでも多く取りたい。

5位#28「KHK VIVIO」、こちらはイエローフラッグ区間での追い越しペナルティでピットストップ。

6位#24「そのまんまのヴィヴィオ」、今回は今ひとつリズムが合っていないようだが、最後まで集中を切らず走りたい。7位#82「東海☆麗神具 KTM カプチーノ」。こちらはレース再開後はしっかりと周回を重ねており、規定周回数クリアに向けてラストスパートへ。

■最終結果

終盤に他クラス原因によるSCランなどもあったが、TCクラスには大きな混乱もなく、最後まで走りきったのは#69「モモヤマレーシングアルト」、お見事初優勝、そして今季4チーム目の勝者となった。

2位は#392「Zammers ヴィヴィオ」、やはり上手さを見せて2位確保。3位はこちらも上手くて強い#330「DIXCEL コンパーノミラ」、トップまでは届かなかったが、しっかりと表彰台を確保するとともに、目下のライバルよりポイントを多く獲得した。

4位#28「KHK VIVIO」最終盤にもペナルティの対象となり1周減算などもあったことが響いたか表彰台までは及ばず。5位#93「藤枝マリンダイビングアルト」、ランク首位チームが失速、悔しい。6位#24「そのまんまのヴィヴィオ」、7位#82「東海☆麗神具 KTM カプチーノ」ともに順風満帆ではないが見事に完走。



タイトル争いは一歩後退か #93



少しリズムが良くなかったか #24



序盤から立て直し見事完走へ #82



TC クラス

Race Report



■総評

いやいや 4 時間が終わって見たら、4 チーム目の勝者、それも初優勝、お見事！！やっぱりカーブパワーの後押しもあったか！？

ポイント上位陣に変動、1P 差ではあるがトップが#330「DIXCEL コンパーノミラ」に。#93「藤枝マリンダイビングアルト」は 2 位に後退、3 位#28「KHK VIVIO」もトップまでは 6P。さらに今回の勝利で数字上は 4 位の#69「モモヤマレーシングアルト」まで可能性が残っている。

さあ決着をつけようか！！



やりました初勝利！！



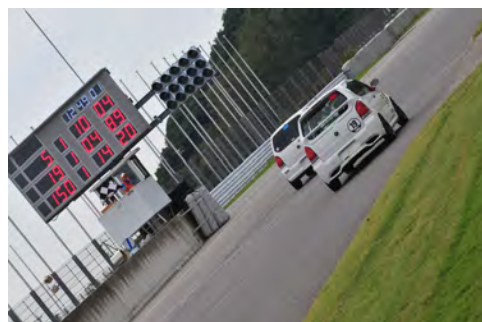
お見事今季 3 勝目で王者決定！ #38



一旦はチェッカー振られたが 2 位 #23



初ポールも悔しい 3 位、速くなったぞ #19



OP クラス（軽NAおよびターボのオープンクラス）

第 3 戦では、#91「BRP★アルトバンターボ」が涙の初優勝、タイトル争いでは#38「デモリッションエグゼ」が依然有利な状況にはあるが、挑戦者に名乗りを上げた格好だ。#23「Team Jatsun アルト」も苦しみながら完走、以前のようにリタイヤは減った、ここはぜひ復活優勝が欲しい。

■予選

予選トップは、#91「BRP★アルトバンターボ」1' 04.899、前戦での優勝に続き今回は初の予選トップ、それも全体の PP という勲章付き。いよいよ波に乗ってきたか。2番手#23「Team Jatsun アルト」が1' 05.149、速さと言ったら俺達だといった感じで真横につける。3番手#38「デモリッションエグゼトウディ」が1' 05.832、NAとしては驚異的なタイム、さすがにOPクラスの猛者たちは違う。今回#23はUstreamでのLiveにトライ、出張中のチーム関係者にネットを通じて見てもらいたいとのことで、面白い取り組み。「ぜひ（リタイヤとかでマシンが）止まっていないところを見てもらいたい」と意気込む。また#38はタイヤとギヤ比を見直してきた、ギヤがよりクロスしてエンジンの美味しいところを使えるとのことだが、「少し（シフトが）忙しいとのこと」、それから最近のコース改修の結果、ゼブラはあまり使わないほうがいいかな。今年で10周年のK耐久ではあるが、セッティングも含めてまだまだ進化するものだと改めて、思う。

■序盤

やはり韋駄天の意地#23「Team Jatsun アルト」、毎回の光景だが今回も早々と序盤から 04 秒台を記録してトップをキープ。2番手は#91「BRP★アルトバンターボ」、こちらも負けじと自己最速Lapで追いかける。#38「デモリッションエグゼトウディ」は早速のピットイン。このあたりの戦略はチームごとで違う。SCランなど予期せぬ要因もあるため、どれが最速の方程式かは一概に言えないところが耐久の面白さ。

■中盤

中盤は#23「Team Jatsun アルト」と#38「デモリッションエグゼトウディ」のトップ争い。1 時間半走ってその差は 2 秒チョット、今回もすごいバトルが展開されていく。さすがにこの速さには#91「BRP★アルトバンターボ」ついていけないか、少しずつ引き離される。いつもならという失礼だが、流れの悪い今シーズンはこのあたりで#23「Team Jatsun アルト」にトラブルが出てしまうという光景を目にしてきたが、今回は違う！ がっぷり四つの戦いを繰り広げている。

■終盤

まだまだガチバトルは続く、折り返し時点でのトップは#23「Team Jatsun アルト」。2 位#38「デモリッションエグゼトウディ」、その差は 10 秒弱。3 位#91「BRP★アルトバンターボ」は2Lap 差。レースに動きがあったのは、ゴールまで一時間を切ろうかという頃、他クラスのコースアウトから SC ランに。この時のトップは#23、残り燃料の心配もあって、ピットへ。これでトップは#38「デモリッションエグゼトウディ」。しかし#38 もピットを残しており、まだわからない。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

#38「デモリッションエグゼクトゥディ」は最終ピットで逆転される可能性があったが、先程の SC ランのあと、さらに別のマシンがコースアウトで再び SC ラン。これで #38 は余裕を持って最終ピットイン、トップでコースに復帰。上位 2 台によるバトルが再開。

この時点で計時トラブルにより、トップは#23「Team Jatsun アルト」と誤認。

その後 180Lap の時点で#23にチェッカーが振られレースが終了したが。結果は #38「デモリッションエグゼクトゥディ」の勝利、2 位が#23「Team Jatsun アルト」という順位で確定された。3 位は連勝を狙った#91「BRP★アルトバンターボ」、ウエイトの影響もあったか、中盤からの上位 2 台の争いには加われなかった。それでも 04 秒台の自己最速 Lap を刻むなど速さは充分、それだけ上位 2 台の争いがハイレベルだったということか。

■総評

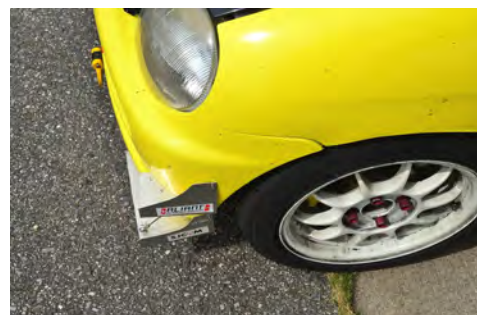
今回 K 耐久は計時システムのトラブルということで、エントラントの方々には少し待っていただくということが起こってしまい、サーキットともども反省させていただきます。

シリーズポイントは#38「デモリッションエグゼクトゥディ」90P なりチャンピオン決定！！おめでとうございます。特に第 4 戦のようなギリギリバトルでの決定は喜びもひとしおかと。

ランク 2 位の#91「BRP★アルトバンターボ」と 3 位の#23「Team Jatsun アルト」は 7P の差、こちらはまだまだ接戦となっている。#23「Team Jatsun アルト」は今シーズンの初勝利が是非欲しいところだ。



生中継する時代になった



OP クラス



チャンピオン決めました！！



またまたオイルは連勝！ V3



闘いすんで、日が暮れて